

事例 3

トラックボールの改造③

1 相談内容

相談者は対象者本人で両手にしびれや痛みのある方です。事務職であり、パソコン使用などに支障があるので相談したいと来所されました。そこで使用状況を詳しくお聞きすると『ノートパソコンのキーボードで文字入力を行ったり、ケンジントンのトラックボールも使っている。しかし痛みが出ると使えないし、しっかり痛みが取れるまでには 5 日くらいかかってしまう。現在、エクセルで罫線を引いたり、図示の矢印を入れて大きさを調整するのにドラッグ操作が必要で何とか手で行っているが、痛みでできなくなるかもしれないと思っている。近々、パワーポイントの作成・修正も仕事で行う可能性があり、ドラッグ操作を楽にできるようにしたい。またトラックボールの左クリックが固いので、弱く改造することができないだろうか。』との要望もありました。

2 対象者プロフィール

20 代女性、身体障害者手帳 6 級です。両膝蓋軟骨軟化症、手根管症候群で右上肢第 2、第 3 手指、手掌のしびれ、疼痛があり、軽度ですが左手にも同様の症状があります。

3 対応

トラックボールで「ドラッグ操作」が楽にできるよう、ケンジントン Web サイトのトラックボール設定ソフト(KensingtonWorks)の紹介と、トラックボールの左クリックボタンを別のスイッチで押せるよう提案し、外部端子を取り付けることにしました。取付方法は事例 2 と同様ですが場所がなく、ケースと基板のすき間へ端子を挿入させました。



すき間へ端子を挿入



改造後の外観(左側に外部端子)

4 結果

外部端子につなぐスイッチとして、プラケーススイッチ(FK-016A-S01-15、押下力 10g、(有)TY 企画)を試していただき、対象者から『このスイッチが軽くて良い。これで手への負担軽減になり操作が楽になりそう。』と感想が寄せられました。

5 予算

300 円程度